

国際協力の現場を語る

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしてきています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦勞、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

日 時:毎月第3水曜日 15時00分～16時45分
 会 場:JICA横浜 (Web会議併用)
 会 費:無料 (どなたでも自由に参加できます)
 主 催:NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会
 後 援:JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。)

問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜日
 Fax : 045-663-3263 担当:井坂敏之 (046-887-0286)
 URL [https:// jicasvob.com](https://jicasvob.com) E-mail info@jicasvob.com



赴任国(講演者)	「タイトル」	講演概要
第197回 6月15日 (水) コンゴ民主共和国、ペルー、 バングラデシュ (工藤 巖)		「ボトムアップ方式による国際協力」 60年前のアメリカ農業研修を起点として、JICA発足以前から世界再造の一環として海外農業開発専門家として、アフリカ・アジア・中南米など世界22ヶ国の農業開発経験、「ボトムアップ方式による国際協力」の内、3ヶ国について私なりの心構えなどについてお話しします。
第198回 7月20日 (水) ベトナム (寺岡 茉美)		「東南アジア×国際協力×観光開発」 ベトナムのカントー市文化・スポーツ・観光局にて、観光振興の支援活動、職員へのマーケティング教育、他省で実施された観光博覧会の企画実施運営などに携わりました。コロナ禍での観光地調査や宿泊施設への安全対策の強化、公的資料の翻訳、空港でのマスク配布等も他部署と連携して実施しました。当日は、約2年ぶりに外国人観光客受け入れを再開したベトナム観光の現状も含めて、ご紹介します。
第199回 8月17日 (水) コロンビア (司 涼)		「コロンビアの生活と観光地の現場から」 カリブ海に面した世界遺産カルタヘナ市の私立大学へ派遣。地域全体として観光業を推進しているが、観光によって地域に負の影響も生じていました。そこで、現地では観光学部で、授業の支援、ゴミの分別等のイベント企画、小学校との連携を中心に活動。隊員期間の後半はコロナウイルスの影響により日本に帰国し、オンラインで現地との活動を継続しました。
第200回 9月21日 (水) ベトナム (大村 恵三)		「俄か日本語教師／64歳の奮戦記」 ベトナム／ハイフォン市にて、現地日本語センターへ求人応募・採用され日本語教師として活動しました。センターでは通常の授業のほか小学校・高等学校・日系企業への訪問授業をはじめ、日本語能力検定試験の試験対策及びスピーチ／ビデオ・コンテストの原稿校正や発表要領の日本語指導など多岐に亘りました。これらの経験から学んだベトナム人の日本への憧れとストレス満載の現地生活を紹介します。
第201回 10月19日 (水) ペルー (金田 青)		「普通の会社員が野球隊員になったら」 海外経験もほとんどなく、「青年海外協力隊」を知らなかったサラリーマンが、野球隊員を目指した理由、活動内容、そして現在を紹介します。首都のリマを拠点とし(1)ナショナルチーム (2)市役所チーム (3)小学校の主に3つのチームで、野球指導だけではなく、国際試合観戦ツアーの企画や大学生短期ボランティアの旅行程計画およびその旅程1ヶ月間のコーディネーターなど多岐にわたって活動した体験をお話しします。